

# 京極読書新聞 <第23号>

発行日 平成23年 6月 1日(水)  
京極町生涯学習センター湧学館

## 京中生に インタビュー

2011

第2回

羊蹄山麓に建つ中学校の新しい校舎。  
京中生たちはいったいどんな本を読んでいるのでしょうか。 <編集部>

### 菅原貴大くん(3年生)「心で勝つ技で勝つ」 佐藤温さん(1年生)「きな子～見習い警察犬の物語」

——新しい校舎、新しい図書室。長かった雨も終わって、ようやく爽やかな季節の到来ですね。

佐藤 私の新校舎の印象は「あたたかい」でした。もちろん、「広い」「明るい」という印象もあるのですが、寒い4月だったので暖かい新校舎は快適でした。

菅原 全体に「木目」の感じがいいですね。自然な感じで、僕の印象もじつは「あたたかい」なんです。図書室も、ばーんと校舎のど真ん中にあるので使いやすいし。

佐藤 本当に、入りやすいし、見やすい図書室です。

——佐藤さん、中学校の生活はどうですか？

佐藤 小学校とちがって、授業ごとに教える先生が変わるところが、びっくりでもあり、おもしろいとも思いました。

——お二人の読書感想文には共通点があって、どちらの本も、スーパースターみたいな存在を描いていないんですね。

菅原 そうですね。「心で勝つ技で勝つ」は日本ハムファイターズの古谷野選手の自伝なのですが、他のスポーツ選手の伝記とはかなりちがいます。

——大記録打ち立てました！勝ちました！という本じゃないですね。

菅原 僕にはそこが大きな魅力なんです。パニック障害という病気を持ちながら、その病気すら自分の野球プレースタイルに組み込んでしまうのが古谷野選手のすごいところです。本の中には、リトルリーグ時代からの親友・松坂大輔選手や、プロに入ってからのライバル・岩隈久志選手も登場しますが、そういう天才肌の選手たちとはちがう古谷野選手の生き方が、僕に安心感をあたえてくれます。

——なるほど。私もこの本はおもしろかったです。こういう選手が地元球団にいるのはうれしいなあ。「きな子」と「あん子」がいる香川県は、ちょっと遠くて残念。

佐藤 会ってみたいです。でも、テレビのニュースでも時々見かけるし、映画にもなったし。映画をノベライズした本は私の愛読書です。

——「きな子」の愛くるしさはもちろんだけど、警察犬訓練士をめざす望月杏子(杏子は「きょうこ」と読むが、「あん子」とも読めるのでこのあだ名がついた)の頑張り的人生もなかなかいいですね。

佐藤 「きな子」と「あん子」。その、どっちもが成長して行かないと、心が通じ合う人生のパートナーになれないんだと気づくところには感動しました。他にもこの本から勇気をもらった場面はいっぱいあって、本当に、一口で語るにはむずかしいです。

——また、読んでる本の話、おしえてください。インタビューをやっていると、なかなか自分では見つけられない本にいっぱい出会うことができるとはうれしいです。



京極読書新聞は  
毎月1日発行です。

2, 3ページに続きます

## 渡辺汐海さん(2年生)「YES お父さんにラブソング」 吉田玲奈さん(1年生)「止まったままの時計」

——新しい校舎、新しい中学校生活、どうでしょう？

渡辺 広くなったような気がします。

吉田 毎日楽しいです。クラブ活動も楽しいけれど、友だちと毎日いられることがなによりうれしいです。

——そうですか。おじさんは逆にちょっとさびしい毎日ですよ。去年一年間、仮設校舎から流れてくるチャイムを聴いて、窓越しにみんなの勉強している姿を見て「よし、今日も頑張るぞ！」ってやっていた毎日がなくなつて…なんか、まだ頭が慣れていません(笑)

渡辺 あの仮設校舎の一年間めめずらしい体験でした。

——渡辺さんの「YES お父さんにラブソング」。世の中にはこんないろいろなお父さんがいるんだなあ…ってあらためて思いましたね。

渡辺 私はやはり「誕生日プレゼント」のお父さんが好きです。家が貧しく、兄弟も多かったお父さんがもらった最初で最後の誕生日プレゼント。それは「名前だよ」というお父さんの一言が、私のなにかを動かしたような気がします。この言葉からしばらく目が離せませんでした。何度も読み返して、そして、私の名前はどこから来たのかとかいろいろなことを考えさせられました。

——私にも娘がいるんだけど、やっぱり中学生の頃かな、親と一緒に町で買い物したりするのを嫌がる時期とかありましたね。お母さんならまだゆるせるけれど、お父さんとなんか問題外！って感じてました。

渡辺 別に、どういう理由もないんですけどね。

——反抗期っていうのかな。大人になるためには必要な時期みたいです。むしろ、反抗期がないまま大人になってしまう方が問題みたい。そういう意味では、吉田さんの「止まったままの時計」には、小学6年生の翔のまわりいろいろな大人たちがいろいろな思いを投げかけてくれるのが、とてもうらやましい。

吉田 自殺した親友のタイム。タイムの両親。親戚の流兄ちゃん。ゲーム好きのおばあちゃん。おばあちゃんのお母さん、アサさん。いろいろな大人が出てきますね。

——そのアサさんの「止まったままの時計」。翔を、戦争で亡くした息子ツヨシとまちがえる…というのが切なくてね。今、東日本大震災で死亡・行方不明者が2万8千人を越えるとか聞かれています。その中には小学生や赤ちゃんもいただろうと思うと、なにかたまらない気持ちになりますね。

吉田 この本は、タイムの死をきっかけに、6年1組全員が夏休みの自由研究で「命」について考えるというお話です。最後で、翔と帆乃香の二人がまとめたレポート。最終章が「タイムへの手紙」だったことにはたいへん心をうたれました。



## 今年度の読書会、出前図書館 スタート!!

さわやかな五月。  
今年度のすべての湧学館事業が動き出しました。  
今年もバリバリ本を読んでいきましょう！



5/26(木) 京極小学校出前図書館

5/27(金) 峯崎ひさみ読書会



<6月の予定>

6/ 3(金) 京中出前図書館	6/17(金) 平家物語読書会
6/ 3(金) 平家物語読書会	6/23(木) 南京出前図書館
6/16(木) 京小出前図書館	6/24(金) 峯崎ひさみ読書会



「心で勝つ技で勝つ」 小谷野栄一著/潮出版社  
「きな子 見習い警察犬の物語」 水稀しま著/小学館



「yes お父さんにラブソング」 川上健一著/PHP研究所  
「止まったままの時計」 今井福子作/文研出版

## 後志シネマ散歩

## 第2回 蟹工船

湧学館司書 新谷 保人 (あらや・やすひと)

祝津の燈台が、廻転する度にキラッキラッと光るのが、ずうと遠い右手に、一面灰色の海のような海霧の中から見えた。それが他方へ廻転してゆくとき、何か神秘的に、長く、遠く白銀色の光茫を何海理もサッと引いた。

(小林多喜二／蟹工船)

小樽・祝津(しゅくつ)の沖を、今年も蟹工船の船団が通ります。日和山灯台の灯を背に、遠くカムチャッカの海をめざす船。

蟹工船とは、カニ漁を北の海で行うだけではなく、獲ったカニをその場でボイルし、缶詰に加工してしまう船のことです。流氷がとけた四月にはさっそく樺太やベーリング海に向かい、ふたたび流氷がやってくるまでの半年間、カニ漁をつづけるのです。缶詰加工までをやってしまいますから、蟹工船には、雇いの漁師たちの他に、おもに船内の加工場労働の方にまわされる子どもたちの姿も数多く見うけられます。

小林多喜二「蟹工船」の細部を忠実に画像で再現した昭和28年映画「蟹工船」(監督:山村聡)。野卑なことばや残酷な場面がこの映画についてはよく言われますが、それはもともとの多喜二の小説がそうなっているのだからしょうがないという気もします。映画だから特に刺激を強めて効果をねらっているとか、そういうことではありません。



それよりもショックだったのは、子ども。蟹工船に乗り込むことになった十四、五歳の貧しい家の子どもの顔の画面で見せると声もありません。

薄暗い隅の方で、裃を着、股引をはいた、風呂敷を三角にかぶった女出面(でめん)らしい母親が、林檎の皮をむいて、棚に腹ん這いになっている子供に食わしてやっていた。子供の食うのを見ながら、自分では剥いたぐるぐるの輪になった皮を食っている。何かしゃべったり、子供のそばの小さい風呂敷包みを何度も解いたり、直してやっていた。そういうのが七、八人もいた。誰も送って来てくれるもののない内地から来た子供達は、時々そっちの方をぬすみ見るように、見ていた。

本では何気なく読み飛ばしていた場面も、映像で、こういう親子の別れの場面を見せつけられると、ああなんてひどい時代なんだろう!と身体が震えてきます。かつて、そう遠くない昔、私たちの祖父母、曾祖父母の時代には、こうやって、子どもを蟹工船に乗せなければ一家が食ってゆけない世界が確かにあったのだということを映画は無言で語っています。

てきぱきと30分でマンガ「蟹工船」を読むのもいいでしょう。でも、やはり、マンガではなにかが決定的に欠けている。3時間という長い時間がかかりますが、映画は その欠けたなにかをたしかに心に伝えてくるのです。



▲多喜二が勤めていた北海道拓殖銀行小樽支店。今では、きれいなホテルになって残っています。

## 発行

京極町生涯学習センター湧学館  
〒044-0101 京極町字京極158番地1  
TEL 0136-42-2700(代表)  
FAX 0136-42-2032  
E-Mail yugakukan@town-kyogoku.jp



ホームページもご覧ください  
<http://lib-kyogoku.cubet.com/>

